

## マルチモダリティーシンポジウム (versus) 参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

6月4日(土曜日:2016年)に仙台市においてマルチモダリティーシンポジウム(Versus)が開催されました。この研究会の名前に関してはVersusの方が聞き慣れているかと思います。Versusはご存知かもしれませんが特定の疾患や部位に対して様々なモダリティーがどのように使われているのか?または得意・不得意な領域は?などを総合的に議論する研究会です。今回のVersusは「小児疾患を診る」というテーマでMR、一般撮影、CT、核医学、超音波の5つのモダリティーによるシンポジウムとシンポジウムの前に教育講演、シンポジウム後に脳神経外科医による特別講演のプログラムで構成されていました。教育講演では小児MRIの安全性に関する講演でしたが、その中で小児の検査で鎮静と同時に小児患者に安心して検査を受けられるようにプリパレーションを導入している事をお話しされました。プリパレーションとは小児に対して検査の内容を事前におわかりやすく説明を行い、心理的な準備をしてもらう方法らしいですが、小児CTにおいてもプリパレーションは今後必要かと感じました。シンポジウムですがCTにおいては乳児、小児心臓CTに関する報告を大阪府立母子保健総合医療センターの阿部修司氏によりsingle slice CTから320列Aquilion ONE Vision editionに至るまでの検査方法の変遷や現在の工夫、臨床での有用性を講演されていました。阿部氏の講演の中で乳児・小児においては成人よりもさらに低侵襲な検査を行うことの重要性を強調されており現在では基本管電圧80kVの撮影による低被曝と造影効果の上昇による造影剤低減、更に生理食塩水を任意の量と速度で注入可能な方法を用いて睡眠状態の小児に対する血管外漏出の危険性の回避を考慮した生食テストインジェクターモードの開発などを報告されていました。

5人のパネラーによるディスカッションにおいても阿部氏からは体格の違いによる管電圧の設定方法やCTが最も得意とする領域・疾

患以外にご自身が勤務されている病院における他のモダリティでの活用方法や撮影方法などもお話しして頂きモダリティではなく施設の立ち位置による違いも感じることができました。会場からも多くの質問が各演者の先生方にあり、Versusらしい情報共有が出来たのではないかと思います。



ディスカッション風景

最後の特別講演は宮城県立こども病院 脳神経外科の白根礼造先生から様々な小児脳神経疾患に対する治療や画像の役割について講演して頂きました。また小児の発育過程や就学・受験などの時期に合わせて治療戦略や医師としての患者との関わりなど学問以外に医療人としての患者への接し方などもお話しして頂き、あっという間の1時間だったと会場の皆さんも感じたと思いました。

会の終了後には参加者と演者との懇親会がありましたが、Versus参加者約220名のうち70名程の方が懇親会に参加があり、東北の方の熱意を感じると共に、改めてお酒の強さに驚くばかりでした。懇親会では流石仙台だけあって牛タン食べ放題があったり、大学生による就活などあったり若者からかなりのベテランまで和気藹々な

会話がありました。

懇親会後も 2 次会、3 次会と多くの方が流れ長い Versus の 1 日を過ごされてたかと思います。

来年は広島で骨軟部での Versus です。北海道からは遠いですが勉強になる研究会の一つだと思います。



懇親会の風景